

## 「六角橋教会 行動指針」

### 1. これまでの経緯

1/30木 WHO「指定感染症」となる ⇒2/5水 クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」集団感染&隔離措置  
2/25火 日本政府「基本方針」(イベント開催注意喚起) & 日本基督教団議長書簡(「礼拝に関する注意喚起」①)  
2/27木 日本政府、全国の学校に休校要請

⇒3/1日 「六角橋教会の対応」①(礼拝と祈禱会は、十分注意して開催)

3/12木 WHO「パンデミック宣言」 & 3/19木 政府「対オーバーシュート基本戦略」

⇒3/22日 「六角橋教会の対応」②(引き続き注意しながら礼拝・祈禱会開催。「正しいオソレ」を!)

3/25水 日本政府、「週末および平日夜間の外出自粛」要請 & 3/26木 首都圏自治体「外出自粛」要請

⇒3/29日 「六角橋教会の対応」③(総会延期+「緊急事態宣言」発令までは現状通り)

4/3金 日本基督教団議長書簡が届く(3/27付け「礼拝に関する注意喚起」② 礼拝および教会総会の持ち方)  
—同日現在、世界の感染者数100万人超、死者も5万人以上(日本は国内感染者2600人強、死者60人以上)。

⇒4/5日 「六角橋教会の対応」④=「行動指針」(経緯のまとめ、警戒レベル上昇への対応)

### 2. 六角橋教会としての対応を検討する際、とくに参考となった情報源

\*キリスト新聞「緊急提言 問われる“礼拝とは?”」(3/14)、

同 「緊急特集 礼拝をどうする? 揺れる教会の現場」(3/21)

\*メルケル独首相のテレビ演説(3/18)

★ウェブサイト「山中伸弥による新型コロナウイルス情報発信」(3/21~)

★佐伯啓思「現代文明 かくも脆弱」朝日新聞(3/31)「オピニオン&フォーラム 異論のススメ スペシャル」

\*白井晃「コロナ禍と文化 続けるための知恵絞りたい」神奈川新聞(4/2)

### 3. 「新型コロナウイルス感染症」について、わかっていること

■未知のウィルス: 人類が初めて出会うウィルス。経験値が無い。

・ワクチンが無い⇒「リスク管理」不能な、「不確実性」状態(感染スピードが読めない)。

・細菌と異なり、衛生管理や健康維持による免疫力の効果が高い。

■高い感染力: 「感染」と「発症」のちがいが。発症してからの症状に差(軽症、中程度、重症)。致死率にも地域差。

・感染者のうち8割は軽症か。

・但し、高齢者や既往症のある人は、重症化しやすく、死亡率も高い。

■他の感染症との比較

・ペスト(14世紀): 世界人口4億5千万人のうち、死者1億人(推定)。

・スペイン風邪(1918): 感染者約6億人。死者は2~5千万人。

・SARS(重症急性呼吸器症候群、2002-03): 感染者約8千人、死者約800人。

・MERS(中東呼吸器症候群、2013): 感染者数約2500人、死者約860人。

・結核(2018): 世界の4人に1人が感染。発症者約1千万人、死者約150万人。

(ちなみにインフルエンザの場合、感染者数は日本国内だけで毎年約1千万人、死者数千人~1万人程度。)

■代表的な対応について(アジアから)

A) 中国型「地域封鎖」: 政府が合法的かつ中央集権的に施行 ⇔ 強力な罰則規定と強制力が必要

B) 韓国型「ローラー作戦」: 感染者をしらみ潰しに検査 ⇔ 医療崩壊が起きやすい

C) 日本型「クラスター対策」: 集団発生源を特定し対応 ⇔ 国民の自発的自粛に大きく依存

## 4. 六角橋教会としての行動指針

### (ア) 教会は、何よりも、一人ひとりの信仰を養い、支える「霊的」共同体です。

「ここは、祈りの家である」—あの“宮浄め”の場面でキリストは命がけで訴えました。以来、2千年の間、教会は、たとえ戦時中や自然災害の中でも礼拝をし続けてきました。人々の魂に憩い(シャローム)を与え続けるために。

「非宗教」の時代にあつて、礼拝を「文化行事」とみなし、「不要不急」と考える人がいるのは当然です。ただ、礼拝は単なる集会ではありません。ましてや、「イベント」ではありません。

礼拝は、「魂の交わり」の前線基地なのです。そこで教会は、祈ること、そして礼拝をささげることを決してやめません。

### (イ) 同時に、教会は、社会的責任を負う「宗教法人」です。

教会は、つらなる一人ひとりの、さらに向こうにいる家族や友人、そして地域とも深くつながっています。教会は、そもそも「宗教法人格」を持っています。それは、教会が、置かれた社会に対して「公的責任」を担っている、ということにほかなりません。そして、神奈川県は、東京都同様、最高レベルの「感染拡大警戒地域」とされています。そのため、50人以上の集会は自粛するようにと要請されています。

そこで礼拝および諸集会も、その「持ち方」および「出席」について、細心の注意と配慮が求められます。出席者にも、衛生管理と、みずからの健康状態に対する自覚と責任が求められます。

公共機関で移動される方、礼拝出席に不安をお持ちの方は、どうぞお家にいらしてください。礼拝に出席がゆるされた者が、いらっしゃれない方のことを思い祈っていますので、それぞれ置かれた場でも、礼拝を想って祈り、聖書を読み、賛美をささげてください。こうした「自宅礼拝」も、会堂での礼拝と同じように喜んでくださるのが、聖書の神様なのですから。また、自宅礼拝を支えるためにできることがあれば、教会は何でもいたします。

### (ウ) 4月の行事予定について

現在は、「緊急事態宣言」がいつ発令されるかわからない状況です。4月3日時点では、「外出自粛要請」が継続中ながら、警戒レベルがいつそう高まっていると考え、礼拝・諸集会は以下のようにいたします。

#### ■礼拝は、日曜学校礼拝とも、以下のことに気を付けて開催。

- ・入館時の手指消毒および礼拝中のマスク常時着用。
- ・窓を所々開けて換気し、座席も2人以上開けて着席(目安として、1列に3名)。
- ・聖餐式は、衛生に万全を期して執行(準備と配餐にあたる者は、マスクと手袋を着用)。

#### ■祈祷会も(受難週特別祈祷会を含め)予定通りいたしますが、平日夜間も「外出自粛要請」が出ていることに、十分留意してください。

#### ■4月19日の礼拝後に延期した教会総会は、役員選挙と予算決算承認を中心に、礼拝に引き続き短時間でおこないます。出席者が少ない場合は、コロナ対応の特例として委任状を加えて総会成立を諮ります。役員選挙の期日前投票と合わせて、ご協力ください。

#### ■礼拝にいらっしゃれない方たちのために、復活日礼拝(4/12)をめどに、礼拝のインターネットライブ配信を開始する方向で調整中ですが、その情報は礼拝順序と合わせて事前にホームページへアップします。礼拝順序を、FAXやメールでご所望の方は、どうぞ教会までご連絡ください。

なお、「緊急事態宣言」が発令された場合は、①日曜学校はその間休校、②一般礼拝は教職中心で開催、③教会員は「自宅で礼拝」(このときは連絡網で通知します)、④教会総会は延期。具体的方法は4/5役員会で協議します。

この段階にあつては、誰もがすでに新型コロナウイルスに感染しているかもしれません。しかし、発症させない努力は、誰でもできます。さらに感染を拡大させない努力も、各自惜しむことなくいたしましょう。iPS細胞で知られる山中伸弥さんが言うように、この新型コロナウイルスが「インフルエンザ並みの“付き合う病気”」になるまでは長期戦になるかもしれません。しかし、この感染症に関しては、必ず終わりが来るのです。それまでは、信仰＝「**畏れるべきものをこそ畏れる『正しいオソレ』**」をもって、一緒に耐え忍びましょう。祈りと、そして愛をもって。